

答 辞

澄んだ空から柔らかな光が降り注ぎ、桜の蕾が膨らみ始める季節になりました。今日私たち二百三十三人は皆様に見守られながら、ここ中央中学校を卒業します。本日お忙しい中、私たちのためにご臨席たまわりありがとうございます。

三年前の春、少し大きな制服に身を包み、期待と不安を抱きながら、この席に座っていました。あのときと、今日も場所は変わりません。ですが、心身ともに成長した自分がいます。自分を作ってくれた三年間だと実感しています。

右も左も分からなかった四月、私たちは仲間と協力し、「切磋琢磨」してがんばりました。中学校ではないチャイム。小学校で当たり前にあったものがないこの学校で、余裕をもって行動するために、私たちは声を掛け合いました。そして今では、「時間行動」は私たちの大きな財産です。すべてが初めてで分からなかった私たちに先輩方は何度も優しく声をかけて教えてくださいました。こんな先輩になりたいと心から思いました。そして、体育祭では先輩に支えられながら、仲間とともに「切磋琢磨」し協力することで、新しい仲間と絆を見つけられました。

二年生は「極」をスローガンとして三年生に向けて活動しました。学校生活にも慣れ、部活・行事・日常生活と、一年生の「先輩」三年生の「後輩」としての一年を過ごしました。宿泊研修は、天気が悪く、日程や活動内容が変更になっても、臨機応変に行動することができました。職場体験は、「働く」ことの喜びや大変さ、働く意義を学び、さらに自分の将来について考えるきっかけになりました。合唱発表会は、それぞれの学級で心を一つに思いを乗せた合唱ができました。そして、二年生では三年生につなぐための活動として、「時間行動」に加えて、「あいさつ」についても力を入れて活動しました。

三年生の始まりは新型コロナウイルスの影響で、休校があったり、分散登校で始まりました。ほとんどの行事がなくなる中、私たちは学校での思い出作りとして、何ができるのかを考えました。執行部が中心となって行った「中央中ギネス・中央中レク」は学校に笑顔をあふれさせました。「あいさつキャンペーン」は、元気なあいさつが学校中に響き渡っていました。こうした姿から伝統を継承できていると実感しました。修学旅行は、新型コロナウイルスの影響もあり、中止になると思われましたが、先生方のおかげで、行うことができました。

多くのことがこれまでとは違う一年だったけれど、「瞬」く間に過ぎていきました。その全てのできごとは瞳を閉じれば、スクリーンに映し出されたように様々な思い出を鮮明に思い描くことができます。

そして、その全ての思い出には必ず先生方がいます。私たちが入学したときから今日まで正者和也先生をはじめ、様々な先生方に支えていただきました。先生方と過ごした三年間はかけがえのないものです。先生方は今年、進路で悩む私たちと真剣に向き合い寄り添ってくださいました。先生方のものの見方や考え方、数々の助言は羅針盤となり、私たちを導いてくださいました。これからはその教えを胸に自分たちで道を見つけ進んでいきます。私たちは先生方のことが大好きです。本当にありがとうございました。

お父さん、お母さん。本当に今まで私たちを育て、支えてくださってありがとうございました。部活動では忙しい中の送迎や試合のときの準備、本当にたくさんの時間を私たちのために費やしてくれました。お父さんとお母さんは私たちの心の支えです。これからもお世話になる私たちですが、少しずつ恩返しができるよう努力していきます。大切に、大好きな家族。これからもよろしくお願いします。

最後に、三年間一緒に生活し学んできたみんな。一緒に悩んだり、笑ったり、怒ったり、喜んだりしました。どんなにつらいことがあってもみんなの支えと笑顔に救われました。これから先、それぞれが別の道に進むこととなります。これからは仲間がそばにいないことが当たり前はなくなります。ですが、私たちには三年間の思い出があります。この思い出を糧に、中央中学校の卒業生としての誇りを胸に、自信をもってそれぞれの未来を切り拓いていきましょう。

卒業生を代表し、母校への心からの感謝と、皆様のご活躍、益々の中央中学校の発展を願って、答辞とさせていただきます。

令和二年度 三月五日

卒業生代表

田本 滢

成松 宏輔